

【月刊】キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2018年4月1日発行（毎月一回発行）第724号

ISSN 0286-7001

本の ひろば

4 APRIL
2018

出会い・人

人を嘘つきにするほどの古典を読みたい
久下倫生

P.T.フォーサイス 著／斎藤剛毅 訳
新版 祈りの精神 小島誠志

本・批評と紹介

全国連合長老会日曜学校委員会 編
新・明解カテキズム 吉村和雄

加藤常昭 編
日本の説教者たちの言葉
わが神、わが神—受難と復活の説教
小峯 明

ノエル・ストレットフィールド 著／中村妙子 訳
ふたりのスケーター 徐 奈美

アントニー・M.コニアリス 著／松島雄一 訳
落ちこんだら 大坂太郎

鈴木佳秀 著
VTJ旧約聖書注解
出エジプト記1—18章 池田 裕

三木メイ 著
嵐と風と不思議なマント 西原廉太

トム・ハーパー 作／中村吉基 訳、望月麻生 絵
いのちの水 奥田知志

本屋さんが選んだお勧めの本

小川修パウロ書簡講義録刊行会 編
小川修パウロ書簡講義録6
コリント後書講義 清水芳樹

既刊案内

書店案内



聖書の風景

小磯良平の聖書挿絵

岩井健作 著 (いらい・けんさく氏は日本基督教団隠退教師)

日本を代表する洋画家・小磯良平が描き下ろした32点の挿絵を収録。著者は神戸教会牧師時代、同教会の信徒だった画家と親しく接し、創作の姿をつぶさに見た。本書では、挿絵を一点ずつ取り上げ、画家が聖書から何を読み取り表現したかを解説。聖書から挿絵へ、そして挿絵から聖書へといざなう一書。

◆A5判変型判・本体2500円

教会と国家Ⅲ

バルト・セレクション6

カール・バルト 著 / 天野有編訳

東西冷戦の時代

戦後の再建期から激しい冷戦期に向かう困難な時代に公にされた「キリスト者共同体と市民共同体」「国家秩序の転換のうちにある教会」など、重要な政治的・神学的論考11編を収録。特別解説「神に基づく政治」(B・クラッパート)。

◆文庫判・本体1800円

新約聖書と神の民 下巻

N・T・ライト 著 / 山口希生訳

主著邦訳、待望の完結!

上巻で詳細な方法的基礎づけを終えた後、本下巻ではいよいよ原始教会の信仰理解を詳述。教会の生成と新約聖書の成立の様相が明らかとなる。

◆A5判・本体3700円

キリスト教の再定義のために

荒井 献 著 (あらい・ささく氏は東京大学、恵泉女学園大学名誉教授)

日本の聖書学を牽引し、また教会と教育に仕えてきた著者の、半世紀に及ぶ信仰的・学問的実存の軌跡を鮮やかに示す一書。55編の文章を精選。

◆四六判・本体4500円

原画展開催!

5月9日～27日、教文館3階ギャラリーにて

トークや望月麻生牧師による消しゴム版画のワークショップなど盛り沢山 (詳細はHP等で告知します)

いのちの水

トム・ハーパー 作 / 中村吉基 訳 / 望月麻生 絵

昔々、いのちの水の湧き出る泉があった。しかし、感謝するために建てた記念碑は次第に大げさな礼拝堂となり、ついには泉がどこにあるのか分からなくなってしまった……。宗教の閉鎖性を痛烈に批判した寓話を、達意の訳文と、美しい消しゴム版画によって贈る。

◆B6判・本体1500円





出会い・本・人

人を嘘つきにするほどの古典を読みたい——久下倫生

読書は想像力を刺激する。特に良い本であれば、物語やファンタジーに限らず、お堅い哲学の本でも、科学書でもそうである。わたしは、ずっと研究開発の仕事に取り組んだ理系人間なので、教会の方があまり読まないニュートンや、アインシュタインの本に感動し想像をたくましくした。ロケットに乗って宇宙を飛び回ったり、時間の壁を越えてタイムマシーンに乗ったり。そういう経験を他人に話すと、わたしは嘘つきになってしまった自分に気づく。まるで、本当に旅したかのように話してしまう。良書は人を病的嘘つきにする傾向がある。この病気に冒されると、新聞やテレビは実にはからしくなってしまう。三十歳の誕生日以来、新聞を定期購読したことはないし、テレビは結婚してからずっと持っていないので、最近のホットな話題にはついていけないが、困るのは魚のあらを捨てるとき包み紙がないことだけである。

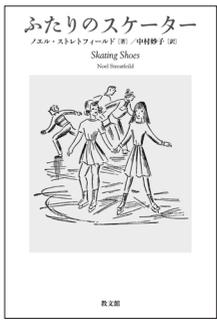
これだけなら、妄想好きの変人で済むのだが、世界を変えたダーウインの『種の起源』を、想像力を使って牧師や熱心な信徒に紹介すると、お前は聖書を信じない無信仰人間だと断じられることがほとんどで、ちよつと困った。わたしは福音派のキリスト者である。そこでいろいろと弁解して気付いたのが、いわゆる「進化論」を否定する人は、進化論とは何かを知らな

いのではないかということだった。それでアンケートを実施した。約二百人の周囲にいる理系の研究者に、『種の起源』を一部でもまともに読んだことがあるか、理解したかを問うたところ、読んでいたのは一人だった！ 福音派の牧師にいたっては、おそらく皆無ではないかと思う。無理もない。岩波文庫の『種の起源』は翻訳がむつかしすぎて、読み通すのは大変な根気がいる（最近、読みやすい訳が光文社から出ている）。誤訳もあつて意味が分かりにくいのが、ダーウインの本を一ページも読んだことのない人間から、お前は無信仰だと言われるのは滑稽である。

本には絶対読まねばならない本、読んだ方がいい本、どうでもいい本、読まない方がいいものもあるが、たいていは読みやすい本、読める本だけを読む。古典を読まず解説本を読む。反省している。最近、ものすごくいい本に出会った。『信の哲学』、千葉惠著、北海道大学出版会。革命的内容である。大いに想像力を刺激される。大著かつ高価であるが、仲間には勧めている。絶対読まねばならない本だが、『種の起源』になるかもしれない。（くげ・ともお 日本基督教団マラナ・タ教会牧師、KD K神学会代表、工学博士、医学博士）

子どもの成長に必要なものは何か
ノエル・ストレットフィールド著
中村妙子訳

ふたりのスケーター



徐 奈美

認められることはとてもうれしい。けれども、その力がさらに育ってきたとき、まわりからの期待やプレッシャーが負担となってしまうたり、自分の自信ばかりが高まって、伸び悩み実力に目をむけられなくなったりすることがある。特にそれが、子どもの場合、まわりの大人はどのようにして、その子の力になることができるだろうか。

この本の主人公、ララとハリエットは九歳の女の子。二人が育った環境は全く異なるものだった。ララは、有名なスケート選手が父親だが、早くに両親を事故で失い、父親の妹の家で育てられる。この叔母は、ララを有名なスケート選手に育てることが自分の義務であるかのように考えている。ララのスケジュールは、午前中は、家庭教師に勉強を見てもらい、午後にはコーチと一緒にスケートのレッスン。さらに、ダンスやフェンシングのレッスンが加わる日もある。スケートに集中するために、学校にも通えない毎日だ。金銭的には余裕があるが、友だちと遊ぶ時間も、自由な時間もなく、まわりにいるのは大人ばかり。そんなある日、ララが通うスケートリンクに、同じ年頃のハ

リエットがやってきた。ハリエットは、風邪をこじらせて体力がなくなってしまう、かかりつけのお医者さんに、体力回復を目的にスケートを薦められた。けれども、家庭は裕福ではなく、スケート場に通うお金さえまならない。そこで、お医者さんが知り合いを通じて、スケート場の入場料を無料にしてくれ、スケート靴の借り賃は兄さんがアルバイトで稼いでくれることになった。ハリエットは、四人兄妹の三番目。幸せな家庭の様子は、物語の端々からうかがえる。家族の会話、母親の思い、兄弟のふるまいは、読んでいるだけで心温まる。

ララとハリエットの出会いには、ハリエットがはじめてスケート場に行った日のこと。手すりにしがみついているのがやっとのハリエットをララが手ほどきをすることにいった。二人は意気投合した。この日をきっかけに、ララのスケートレッスンだけでなく、家庭教師との勉強や、ダンスなどのレッスンにもハリエットが加わるようになった。友だちを得たララは、練習も励み、スケートも上達した。しかし、その後の氷の祭典への出場、そして成功はララの虚栄心ばかりを助長させてしまった。

一方、スケートへの思いが日ごとに増すハリエットは、練習への取り組みもよく、その上達ぶりは目を見張るほどだった。上手にスケートを滑ることが自分の存在価値と思っているララにとって、スケートで認められないことは、自分自信の存在価値もゼロになると同じだった。そんな不安な思いが、大切な友だちを傷つける行動をとらせてしまう。しかし、ここでの大人の計らいがすばらしかった。二人の良いところをのびしたいと考えて、彼女らの気持ちを尊重したものだ。そして、それを乗り越えた二人は大きく成長する。

二人の心の動きをこまやかに描いた本作品は、読み手をすぐに物語の中へと引き込んでいく。本書は、一九五一年に出版され、日本には一九六七年に紹介された作品の新訳。子どもの心の成長は時代によって大きく変わるものではないと教えてくれる。友だち、理解してくれる大人

作者のノエル・ストレットフィールドは、イングランド出身。一九九七年に村の教会の牧師をしている家庭に生まれた。一九三八年に優れた児童書に贈られるカーネギー賞を『サーカスター』で受賞している。この物語には、ハリエットの兄妹四人が重大な誓いごとをたてるときに、唱えるおまじないのことばがある。その言葉をララも一緒に唱える場面があるが、仲間だけにわかる言葉を持っている子どもは、とても豊かな世界を持っていると感じた。その言葉の仲間に入れてもらったときのララは、どんなに嬉しかったことだろう。読者も、読み終える時には、一緒にこのおまじないの言葉を唱えたくなくなるに違いない。

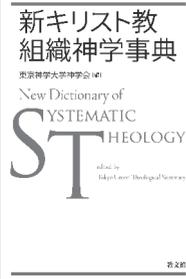
(じよ・なみ) 関東学院小学校司書教諭
(四六判・二二〇頁・本体二二〇〇円+税・教文館)

人の存在が子どもの成長に欠かせない。



教文館の本

http://shop-kyobunkwan.com/



東京神学大学神学会編

●四六判・400頁・本体4,200円

新キリスト教組織神学事典

長年愛用されてきた事典の項目を見直し、すべて新たに書き下ろされた新版。スタンダードかつ最高水準の事典。

佐藤 優氏、平野克己氏、吉田 隆氏推薦!

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
TEL 03-3561-5549
呈/図書目録 ●価格は税別

ダイナミックな神との生き生きとした出会い
鈴木佳秀著

VTJ旧約聖書注解
出エジプト記1～18章



池田裕

旧約聖書の第二番目の書の注解書上巻。全体は大きく、續論第一部(エジプトでの苦難とそこから脱出(1・15・21))、第二部(脱出後の荒野での試練とヤハウエの奇蹟(15・22・18・27))から成り、最後にトピック「出エジプト記を翻訳して示されたこと」として、モーセとアロンの関係、およびレビと祭司の役割についての議論が付されている。

本書記述の極め付きは、イスラエルの民のエジプト脱出という大仕事を命じられたモーセが神に対し発した問い——「ご覧ください。わたしはイスラエルの子らのところに参ります。しかし、あなたがたの先祖の神がわたしをあなたがたに遣わされましたと彼らに言ったとき、彼らは私に『その名前はいつたか』——と尋ねます。わたしは彼らに何と答えるべきですか——」に対する神の宣言「エフィエ アシエル エフィエ」(出エジプト記3・13-14)をめぐるものであろう。

著者によれば、宣言「エフィエ アシエル エフィエ」は名の告知ではない。これまでここに名の告知があるとして、「わたしは有つて有る者」(口語訳)というように訳されてきた(同

じく新共同訳「わたしはある。わたしはあるという者だ」、新改訳「わたしは、『わたしはある。』という者である」、フランシスコ会訳「わたしは『ある』ものである」、関根正雄訳「わたしはあらんとしてある者である」が、原文には関係詞(アシエル)に対し「者」に相当する先行詞がないため、解釈者を悩ませてきた。

岩波版訳は「わたしはなる、わたしがなるものに」としたが、著者の理解はさらに一步踏み込んでダイナミックだ。

著者はこれが12節と連動していること、そこで「わたしはある」と共にあらうとする」と主体的にモーセに臨んだ神は、自身の揺るぎない意志と決意そのものをここでモーセに向かって啓示していることに留意し、そこから「わたしはあらうとして、わたしはあらうとするのだ」と訳す。実際、神の名を明示することに力点があるのではない。この宣言は、救いのために働きかける意志と決断を表明し、共に生きて働く神として、モーセに自己を顕現した神自身の言葉なのだ。

続く「イスラエルの子らに、あなたはこう言いなさい。『わ

たしはあらうとする』が、わたしをあなたがたのところに遣わされたのだ」という宣言(14節後半)も、能動的で積極的な言葉である。先祖の神という呼称で救済活動を行うのではなく、新たな形で明確な意志を告知し、顕現した神として、モーセをイスラエルの子らに遣わす、と著者は言うのである。神からのこの応答は、先祖の神の名とは違う、新しい神の名によって導きを開始するという宣言でもない。人間的な観点から言えば、救済に向けて、意欲的に取り組む姿勢そのものを、神自身が「わたしはあらうとする」との意志をもって顕現したのであり、この意志を持つ神の姿勢を3人称表現にすると、「ヤハウエ」というエフィエの3人称表現になる、そういう理解である(九一―九四頁)。

さらに重要なのは「雑多な人々も大勢加わり彼らと共に上った」という表記(12・38)だ。事実、「出エジプトのドラマは、狭い民族主義的な視点で語られているのではない。ヤハウ

エの救済に与るのは、純血主義に基づくイスラエルの子らだけではない。……血縁を超える共同体、ファラオの支配を潔しめない民という理解に限りなく近づいている」(二一六頁)。これを現代の言葉に訳すなら、二〇一一年三月の東日本大震災・津波・原発事故が招いた地元民の集団移住、また中東やアフリカの内戦・飢餓が生んだ大量の難民たちの西欧を目指しての集団脱出・逃避行ということになろう。そして、ヤハウエの「わたしはあなたと共にあらうとする」という宣言はこれらの人々のためにこそあると考えたい。

初心にかえって聖書を学ぶとき、そこには常に新しい発見や出会いの喜び・感動があるのだということを本書はあらためて教えてくれた。

(いけだ・ゆたか 筑波大学名誉教授)
(A5判・三三〇頁・定価四四〇〇円(二〇一八年四月三〇日までは、三四〇〇円) + 税・日本キリスト教団出版局)

旧約聖書の「ヨナ書」が色鮮やかで躍動感あふれる絵本になりました!

魚にのまれたヨナのおはなし



ピーター・スピアー [作]
小宮 由 [訳]
ヨナは神さまの命令から逃げ出した先で魚にのみこまれてしまい…。預言者ヨナの不思議で壮大な物語を、繊細なタッチで描いた聖書絵本。解説資料「ヨナの旅」付き。

A4判変型・40頁・1,620円

受難と復活の名説教15編



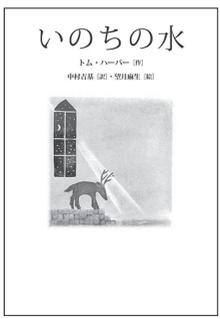
加藤常昭 編
左近淑、竹森満佐一、植村正久など、日本を代表する説教者15人による受難と復活の説教を収録し、詳細な解説を付す。
四六判・2660頁・2700円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.ucci.or.jp (価格8%税込)
http://bp-ucci.jp

分断を描きつつ希望を伝える

トム・ハーバー著
中村吉基訳、望月麻生絵

いのちの水



奥田知志

「分断」の時代となった。二〇一六年七月、相模原市の障がい者施設が襲撃された。犯人は「確信犯」だった。「悪いとわかってた」ということではない。「良いことをしている」と確信していたのだ。彼は、障がい者を「生きる意味のないのち」と断じ「日本と世界の経済のため」と凶行に及んだ。「意味のあるいのち」と「無いいのち」が分断されたのだ。事件に対して世間はあまり動じなかったように思う。彼の引いた「分断線」が私たちの「日常」となりつつあったからではないか。この間、私たちは「分断線」の「こちら側」に身を置いて安心し、「あちら側」の人々を切り捨てた。「あなたがファースト」と言われるとうれしい。しかし「ファースト」と言った途端に「セカンド」や「サード」が生まれた。復興大臣(当時)は震災が起きたのが「あっち(東北)で良かった」と言った。東北は二の次だった。なぜ、東北の福島に東京電力の原子力発電所があるのか。なぜ、沖繩に七〇%以上の米軍基地が集中するのか。私たちは、いつの間にかそれが当たり前だと思いつつ、「分断は常態化」している。

本書「いのちの水」は「常態化した分断」を静かに問う。むかし荒野を旅する人々のいのちをつないだ泉があった。水を飲む者は「単にのどの渇きが潤されるだけでなく、より深い欠乏が満たされることを体感」した。それは「いのちの水」だった。だが、いつしか記念碑が立ち、ついに大聖堂が建てられた。「特別な祭服をまとい、仲間内でしか通用しない特別な言葉」を話す、特別な階級の人たちが、さまざまな規則を定め、水は独占された。水をめぐって争いが起った。預言者は「悔い改めよ、誰もがふたたびその水を飲んで力を得られるよう、すべての境界をなくせ」と抗議したが殺された。預言者はその後、皮肉なことに神殿で尊敬される存在となる。「いのちの水」は昔話となり、「恵みを記念する、麗しい礼拝」が行われるようになるが、神殿の外では人々が渇き死に瀕していた。

この寓話の原作は、トム・ハーバーというカナダの神学者。元カナダ聖公会の司祭。この翻訳本が出版された二〇一七年に召された。創作の経緯は不明だがメッセージは明確だ。

てる子さんによる「あとがき」もいい。カナダ留学中、エイズをめぐる「神学的な議論」において「『人』が忘れられていることに疑問を感じた」榎本さんが、この寓話と出会う。

訳者は、日本基督教団新宿コミュニティ教会牧師で、LG B Tやエイズの方々への講演や相談を行っている中村吉基さん。中村さんは「あらゆる『壁』を打ち壊し、『いのちの水』を自身の手で得る働きを『今、ここ』から始めようと呼びかける。中村さんの生き方が重なる。

これは絵本である。厳しいテーマを優しく凜とした絵が包んでくれる。消しゴムに彫った版画にパステル画を組み合わせて描かれている。日本基督教団四街道教会牧師である望月麻生さんが担当。この本に携わった人々が誰と出会い、誰と生きてきたかが、この本の背骨となっていると思う。

本書が問う「分断線」は教会にある。私たちは、救済論において「救われた人と救われていない人」を分断し、教会形成において「教会と社会」を分断した。「性」や「病气」、「障がい

の有無」や「生産性」などにおいて、この社会と同様の「分断」を教会に持ち込んだ。そして「いのちの水」を教会の専有物だと勘違いした。「かわいている者には、いのちの水の泉から働なしに飲ませよう」(黙示録21章6節)と聖書は明言している。だが、私たちは「働なし」ではダメと考え、「いのちの水」を後生大事にし、結果「分断」を深めた。

「いのちの水」は今も湧き出ている。地下から聞こえる「流水のかすかなこだま」(望月牧師は踊るクジラで表現した!)に人は涙する。そして最後のページ。泉のそばで花は咲き続ける。いのちの水は生きている。解放される日を待っている。教会で読み、悩み、考える本であると同時に、今まで教会に居なかった人々と一緒に読んだら、本書の意味はさらに理解できるように思う。

(おくだ・としし日本バプテスト連盟東八幡キリスト教会牧師)
(B 6判・五六頁・一五〇〇円+税・新教出版社)

人はいかに生きるか
Amazonのレビューにも絶賛の声、声

春の自己啓発本とはまったく異なる、「神から始まる」変革!

Amazonのレビューにも絶賛の声、声

本書は神の言葉に従うことで、いかに人々の生き方が変わるかということを教えてくれます。この本は心理学の本ではなく、神学の本です。ビブリカル・カウンセリングの根底にある思想を知るための、重要な入門書。

*アマゾンブックレビューからAmazon BookReviews *
その年に読んだ本の中で一番良い本だと思いました。クリスチャンが生きていく中でどう変わっていくことが出来るかが書かれている本です。好評発売中! *A5変型判・四〇八頁・一、〇〇〇円

人はいかに生きるか
渡辺 聡の本

東京バプテスト教会のダイナミズム1
—日本唯一のメガ・インターナショナル・チャーチが成長し続ける理由
YOBEL 新書 003 : 168 頁・定価 1,000 円

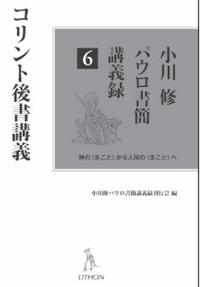
東京バプテスト教会のダイナミズム2
—渋谷のホームレスがクリスチャンになる理由
YOBEL 新書 010 : 208 頁・定価 1,000 円

医者や薬がなくてもうつと引きこもりから生還できる理由
東京バプテスト教会のダイナミズム3
YOBEL 新書 028 : 216 頁・定価 1,000 円

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
お問合せは info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 (本体税別表示)
*自費出版の専門出版社*資料・星

「人基一体」という根本的な事柄への信頼
小川修パウロ書簡講義録刊行会編

小川修パウロ書簡講義録6 コリント後書講義



清水芳樹

本書には、二〇一〇年に同志社大学大学院神学研究科で行われた小川修氏によるコリント後書講義の様子が収録されている。小川氏はコリント後書四章七―一二節がきっかけでパウロに惹かれたと述べられているが(五一頁)、その言葉通り、熱のこもった講義になっている。本書の内容は、授業資料として配布されたギリシア語本文と小川氏による味わい深い日本語訳文、録音から書きおこされた講義形式の釈義、学生との質疑応答からなる。末尾では「パウロと死の問題」と題して、コリント前書一五章五〇―五八節、ローマ書一四章七―一二節、ピリピ書二章六―一二節を取り上げながら、復活を「生きているときの(からだ)の甦り」と捉えるパウロ理解の「勘所」が解説されている。

既刊のローマ書講義、コリント前書講義において、小川氏は「神の(第一の)ピステイス(まこと)から、人の(第二の)ピステイス(まこと)へ」という定式でパウロを理解してこられた。その方針は本書でも堅持されており、「エン・クリストー」「人基一体」といった小川神学のキーワードは本書でも活

躍する。また、本書では二〇〇七年に発表された田川建三氏の『新約聖書 訳と註 3 パウロ書簡その一』が幾度も参照されている。小川氏は田川氏の訳業を高く評価しつつも、田川氏のパウロ批判に対しては率直な反論を展開しておられ、田川氏の著作に親しむ読者にとっては刺激的な講義であろう。一方、小川氏の翻訳・釈義の底流にはカール・バルトや滝沢克己への肯定的共感があり、両者に親しむ読者にとっても興味深い講義となっている。

小川氏は「僕がこれがパウロだと勝手に受け止めてるだけで、(中略) こういう解釈は絶対正しいとは言いませんよ」(三三八頁)など、自らの解釈を相対化するような発言を所々でされている。一読すると小川氏の謙虚な発言ともとれるが、私は小川氏の言葉に、謙虚さよりも、なにか根本的な事柄をつかんでいるという確信に基づく精確さを感じとる。コリント後書一〇章七節について小川氏は、「これですごく重要な科白ですネ。(中略) もし、もし人がですよ、わたしが、自分がクリストの中にいるということがちゃんと分かったならば、わたしは当然、君

たちもまたクリストの中にあるということが見えて来なくちゃならない」(二二二頁)、「極めてパルーシアというのは個人的な出来事ですが、そこが分かると、すべての人がそのクリストの中にあるということが同時に分かるんです。それは、その意味では普遍的な出来事ですネ」(二二六〇頁)と述べる。すなわち、小川氏の解釈では、パウロの言葉を理解することは、解釈者自身がクリストの中にあることを認識するという、他の人に代わってもらうことのできない、その意味で至極個人的な営みを要求する。ゆえに、一人の人間が為しうる最良のパウロ解釈は「これが私の理解するパウロである。あなたはどうか考えるか」という形式にならざるを得ない。小川氏の控え目な発言は、この機微を精確に反映していると私には思われる。

二十代の私は、ぼつりぼつりと宗教や哲学の書物を読みながら「真実とは何か」という問いをめぐって迷走していた。偶然、小川氏の講義に出会い、謎だらけとしか思えなかったパウ

ロ書簡を、真実を告げ知らせようとするギリギリの言葉として読む可能性に眼を開かれた。その後、三十代の私は医療者となり、言葉を振り回す人々や言葉を拒絶する人々と日々接している。診療で迷うたびに私が立ち返るのは、小川氏が本書で語った「人基一体」という、揺るぎない根本的な事柄への信頼である。

根本的な事柄を掴んでいることと、その事柄を精確に言い表すこととは別である。神学の愉しみとは、根本的な事柄をどのように言語的に表現するかという点に、論者の個性が否応なく現れるところに存すると私は思う。本書の神学的な意義を批評する能力を私は持たない。しかし、一人の読者として、私は本書をとても愉しく読了した。本書はsachlichな思索に触れる喜びに溢れている。

(A5判・三五三頁・本体三〇〇円+税・リットン)
(しみず・よしきり精神科専攻医)



現代ヘブライ語 における 前置詞の重要性

ヘブライ語の歴史と
発展に関する一考察

アダ タガー・コヘン 著
同志社大学神学部神学研究科教授

●A5判並製 228頁
本体3,500円+税

ヘブライ語を学び直す喜びが、この本には詰まっています。現代ヘブライ語の醍醐味は、ヘブライ語の歴史が現代によみがえったことを実感できる点にあるのではないのでしょうか。聖書の国からのまたとない贈り物を、心より感謝したい。(市川 裕)

ISBN978-4-86376-063-9

LITHON [リットン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

祈りは創造に参与する
P・T・フォーサイス著
斎藤剛毅訳

新版 祈りの精神



小島誠志

恥ずかしい思い出があります。駆け出しの伝道者の頃でした。地方都市の郊外に生まれたばかりの教会に、初めての定住牧師として遣わされました。どこから始めたらいいか、何をどうしたらいいかさっぱり分からず、気持ちちは焦ってばかりいたある日、先輩牧師からの便りが届きました。「やはり、祈りが大切だ」。便りには四国の山地の教会で労苦している先輩の信仰姿勢が記されていました。そのときわたしは「そうかな？ この先輩は地方の伝道が困難な現場で弱気になっているのでは？」と思いました。そのときの自分は悪戦苦闘しながらも、祈りを軽んじていたのです。ですが、わたしも牧師として教会形成の働きに参与させていただきながら、ひしひしと「祈りのない牧会、伝道などあり得ない」ということを思い知らされるようになっていくのです。

P・T・フォーサイスがこの書を書いた二十世紀の初め、十九世紀の啓蒙主義の影響が色濃く残っている時代でした。彼はここでシュライエルマッハーの言う宗教心、神への絶対依存感情、静寂主義に強く反撥しています。

ず、すべての存在が最深の深みにおいて、祈りを産み出すように協力し関心を寄せ合うように促しているのである」（七四頁）。神の創造の業は神の自由によって創られており、それに対応して被造物のすべてが、その存在の深みから自由な祈りによって協働するべく造られているのだと云うのです。

「祈りの大目的はキリストが父のもとに帰られたように、われわれも父なる神の家に帰り憩うことにあり……」（九五頁）。キリスト者は不断の祈りによって日々神の家に帰っているのです。

その他、とりなしの祈りをする牧師の存在についてこう言われています。「牧師は救い主ではない。……牧師がただ救い主の恵みを媒介する礼典的存在なのである」（一〇六頁）。

牧師は人を訪ね祈り励まします。ひとりの人間としてそうしているわけではありません。教会のキリストを担う者として遣わされているのです。会衆が御言の説き明かしをする牧師の背後

「偉大な神礼拝は偉大な奉仕と行為への自己参与であり、実行である。祈りと共にはじまる一日は、祈られたことが、祈りにおいて実行され、行為において祈られるのでなければ単なる形式となってしまふ」（四五頁）。

第二章「ねばり強い祈り」の中で著者は言います。「祈りは、実際に神の意志を変えることができず、神の意向は変えることはできない」。つづいて「祈りは、神のかたちから創られた人間の力と同様に、神の意志に逆らう形をとることができ、神の意志に逆らうことも神の意志にかなう場合がある」（五〇頁）。

神の御心は変えられないと諦めるところには信仰はないと言うのです。ヤコブと天使の格闘の場面が思い起こされます。「祈りは意志の戦い——どちらかが譲歩するまで続けられる合戦である。それは単なる霊的実践というよりも、神の世界の進行に働きかける能動的力である」（五一頁）。

第三章「不断の祈り」の一節。「世界が自由によって創られたのであり、その自由は、祈りの自由の余地を残したのみならず」。

に教会の主を見ているように。

初版発行から五十年を経た今日、今回、訳文が改められ文章も整えられて新版が発行されたことは、伝道の困難に直面している諸教会に活路を示す一石となるのではないかと期待しています。

（おじま・せいし）日本基督教団久万教会牧師
（四六判・一九二頁・本体一六〇〇円＋税・キリスト新聞社）



辻哲子（前論議深教会牧師） ＊好評発売中！

辻哲子 名言葉に生かされ



高齡化に伴う現実的な牧会上の課題が聖書を土台として興味深く語られる
日本アフラアンズ教団千葉キリスト教会牧師 精神科医
山中正雄師推薦 教会形成の根幹にかかわる聖書論、説教録だけでなく、高齡化に伴う現実的な牧会上の課題が聖書を土台として正面から論じられ読者は幅広いテーマについて深く考えさせられ、学びとることでしょう。 ＊四六判・一七六頁・二〇〇〇円



黒木安信（前浅草橋教会牧師） 巻頭言抄

黒木安信 変わらない 主の真実に支えられて



ウエスレアン・ホーネス教団 浅草橋教会主管理牧師
峯野龍弘師推薦
優れた牧会者、優れた説教者、卓越した霊的指導者、自らの弱さと欠けを知る謙遜な神の僕、碩学の神の器、黒木安信師の玉稿集！
＊四六判・二七二頁・一五〇〇円

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
お問合せは info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 (本体税別表示)
＊自費出版の専門出版社＊資料・星

棋士が先達の棋譜を学ぶように、説教を学ぼう
加藤常昭編

日本の説教者たちの言葉
わが神、わが神
受難と復活の説教



小峯 明

本書は、日本のプロテスタント教会の先達一五人の牧師の「受難と復活の説教」集である。ここに取り上げられた一五人は、日本におけるプロテスタント教会の歴史の草創期から戦後一九九〇年代までの間、それぞれの時代に福音宣教のために教会、教派、神学校で指導的な役割を担った牧師たちである。彼らの名前を見ただけでも、彼らがどの様に受難と復活を説いたのか興味をそそられる。

彼らが福音宣教に熱心に取り組んだ時代は、明治維新から日清、日露、太平洋戦争、敗戦と後の時代に重なる。その時代を経験した村田四郎は、復活の説教の冒頭で、文部省の役人から「キリスト教の復活信仰というような迷信は止めて了った方がよからう」と言われたことから説教を始めている。そして「当然私共はそんな無茶なことを言ったら駄目ですと申しましたんですが……皆さんどうお考えになりますか」と復活を問い、弁証して行く。収録された説教は一九六三年の説教であるが、先達が生きた時代を考えさせる説教である。そのような時代状況の中で、先達は主イエスの受難と復活を証言した。その

説教によって教会の伝道は進展したのである。

今日、これらの一五人の牧師から直接説教を聞くことはできないが、それぞれの説教者の説教がこのように受難と復活という主題のもとに書物として整えられたことは、幸いなことである。語られた説教の文書化の経緯はそれぞれの説教者によって異なるが、植村正久の場合は、録音のなかった時代に語られた説教が速記者によって記録され、植村自身が目を通して読む説教として整え、福音新報等に掲載されるようになった。語られた説教が、読まれる説教となり多くの人々を主イエスのもとに引き、また信徒たちの信仰を養ったのである。

本書の構成は、受難と十字架を主題とした説教が四編(四人)、復活を主題とした説教が十一編(十一人)である。あとがきによれば、本来二つの主題を半々で取り上げる予定であったが、結果的にこうなったとのことであった。それは、特に受難を主題とした説教で取り上げた、竹森満佐一、植村正久、高倉徳太郎と旧日本基督教会の伝統を受け継ぐ三人の説教者の十字架を説く神学に一貫性があり、まずこれらの説教を学んでほしいと

願ったことによるとのことである。その十字架の神学についてはぜひ本書を手にして確認して欲しいと思うが、人間の罪を語り、その罪の解決のために主イエスが十字架に掛かれたことを丁寧語る説教であるということであろう。

それに比して、復活の説教には多様性がある。読者の教会的伝統によっては親しみを感ずる説教と違和感を抱く説教があるかもしれない。編者もあとがきでそのことに触れている。そこにも、日本のプロテスタント教会の説教の一つの歴史がある。いずれにしても、先達が厳しい時代状況の中で聖書と向き合い、真摯に復活を弁証したことを知ることができるであろう。

本書には説教だけでなく、各説教の後に、説教者の略伝が記されている。本書のために改めて調べたことであるが、編者と面識のある説教者も多く、編者との懐かしい思い出も折り込まれ、面識のない先達に親しみを抱かせる。説教者とその生い立ち、そして伝道者としての歩みとその後の働きが記され、

それぞれの伝道者に対する神の御心の深さを感じさせる。そして略伝に続けて、説教そのものの解説が掲載され、取り上げられた説教の特徴、構成、神学的な主張など丁寧に分析が施されている。説教を読み、略伝と解説を読むことで一層理解が深まるといって構成になっている。

一つ一つの説教を仲間たちと丁寧に読み解いて語り合うと、ますます有益であろう。棋士が先達の棋譜を学ぶように、わたしたちも先達の説教を学び、さらに他の多くの説教を学ぶとよいであろう。本書を通して、多くの説教者たちとの出会いを味わってほしいと願っている。そして、これらの説教を学び、古きをさらにたずねて学び、福音宣教に仕えて行きたいと思う。多くの説教に目を通して珠玉の説教を選別された編者の労に感謝をしたい。

(こみね・あきら) 日本キリスト改革派教会 船橋高根教会(牧師)
(四六判・二二四頁・本体二五〇〇円+税・日本キリスト教団出版局)

説教作りを助け、信徒の学びに供する実践的な注解シリーズ

現代聖書注解
INTERPRETATION
A Bible Commentary for Preaching and Reading

31年の歳月を経て
全44巻完結!

全44巻セット
293,738円
各巻 A5判・上製函入

この機会に
全巻を取り
こ全巻を
揃えませんか



最終回本
シリーズ
士師記

説教者も信徒も、士師記から福音を読み取るための必携書!

J・C・マッカーン 山吉智久 訳

争いと残虐行為と不道徳に満ちた士師記。抑圧にうめくイスラエルに士師たちを送り、絶えず民を救おうとし続ける神の恵みを語るこの書から、現代への使信を読み解く。
A5判 上製函入・242頁・4860円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 03-3204-0457
E-mail eigyoku@bp.ucci.or.jp (価格8%税込)
http://bp-ucci.jp

人生の苦難や悲しみに非常に肯定的な評価と積極的意義を讀者に！

アントニー・M・コニアリス著
松島雄一訳

落ちこんだら

正教会司祭の処方箋 171



大坂太郎

評者が幼少期を過ごした町。その名も北海道苫小牧市山手町というのだが、さして広くもない町内には教会が二つもあった。

一つは自らが所属するペンテコステ派の、そしてもう一つはハリストス正教会であった。林に囲まれた住宅地にそびえる会堂は自らがその一隅に住む教会よりもより一層教会らしく、小学校の写生会にも用いられていた。それから幾星霜、正教会司祭が著した本の書評を頼まれることになったのだから人生とは面白いものである。本書はギリシャ正教会の司祭、アントニー・M・コニアリスが書いたものであり、原題は『悲しみと絶望の時に神を見出す』という。しかし内容の軽妙さとこれが正教会司祭によるものであることを前面に出した邦題には訳者のセンスを感じる。然してその内容は「処方箋」ということばがびつたりのエッセイであり、それを読むことによって生きるためのヒントが簡単に得られる仕掛けになっている。「ひと通し」で読むのも良いが、訳者が勧めるように寝る前に二つ三つと読むもよし、また目次を見て気になったところをギデオンバイブルよろしく拾い読みしてもよしという形でまとめられており、ま

ことに便利な一冊である。

さて一七一のエッセイの中に共通して流れている思想の中で取り上げたいことは以下の三点である。まず何よりも著者は人生における苦難や悲しみに非常に肯定的な評価を与えていることである。「苦難は、それにどうやって勇敢に耐えるべきかを知っていれば、私たちが神の前にも人の前にも、いつそう輝かしい者にしてくれる」(クリュソストモス)や「この世を前進させてきたのは苦難を受けた人たちだった」(トルストイ)、さらには「あなたが『人は自分自身のために生きるものではない』ことに最初に気づいたのは、いつだっただろう。：苦難の時だ」(シュバイツァー)といった古今東西の賢者たちの珠玉のことばを縦横無尽に引用することによって苦難の持つ積極的意義に読者をいざない、励ましを与えている。だがそれに留まるのではなく、原題が示すように筆者は読者の目を巧みに神ご自身、あるいはイエス・キリストに向けさせ、神に在る希望を読者に見出させるよう仕向けているのだ。その白眉とも言える

のが「『悪しき金曜』は『善き金曜』に変えられた」(七六一七七頁)である。これは英語で受難日をGood Fridayというところからの説き起こしだが、「ある出来事が起きたその当日には、起きた事は何事も、ふさわしく評価されない」という言葉はキリストの受難の事実と結合し、文字通り深く根を張ったものとして私たちに迫ってくるのだ。

第二に苦難の中でお楽観的に生きることを提唱していることも見逃せない。特に「今日は何の日(二〇四—一〇五頁)」や「神に寝ずの番をまかせれば」(二〇八—一〇九頁)などにはかつてアメリカの良心と評されたノーマン・V・ピール牧師の『積極的考え方の力』にも通じる健全な楽観主義の思想が流れている。とはいえこれは闇雲に根拠なき積極的告白をせよと迫っているのではない。むしろ私たちの人生を「善」へと導いておられる神に対する信頼と祈りこそが明るく、前向き、積極的、肯定的に考えるバックボーンになっていることを教え、その上で落ち込み、絶望の中にあるであろう読者に神を見上げて祈ることを同時に勧めているのだ。これは近藤勝彦先生言うところの「したたかなオプティミズム」(『信徒のための神学入門』二六頁、教文館)であり、クリスチャンライフの実践そのものだといえよう。

第三に落ち込みや絶望から脱するための全人的なモデルが提供されていることも大切な指摘である。とにかくバランスが良く、特に2章に渡って書かれた「エリヤの落ち込み」では、燃

え尽きた預言者エリヤの姿をスケッチすることにより、自己憐憫や孤独といった心理学的側面や、神への信頼の不足といった宗教的側面だけでなく、疲労と空腹という身体的な側面に関しても十分に言及している。これは非常に素晴らしいことである。実際人間はこの世で生きる限り精神が肉体を離れてあることはない。だから筆者が挙げた「どんな悲しみもパンによって小さくなる」(セルヴァンテス)や「人間は愛・仕事・遊び・礼拝という四つの本質的要素によって生きている」(カボット博士)といった言葉は未だに「月、月、火、水、木、金、金」が抜けきらない私たち日本人に対する箴言になること請け合いです。またここに挙げられた多くの名言は説教作成や例話探しに悩む苦悩する牧師にとつての心強い処方箋ともなるだろう。一家に一冊、常備薬的に備えるのも良い。一読をお勧めしたい。(おおさか・たろう) アッセンブリー・ベテルキリスト教会牧師、日本福音主義神学会東部部長理事、四月以降山手町教会牧師

(四六判・三〇四頁・一六〇〇円+税・ヨベル)

ヨベル YOBEL Inc.
西谷幸介 青山学院大学教授
教育的伝道 日本伝道の危機を「学校教会再興論」から提言する待望の論考集成！ *絶賛発売中！
川上直哉 (東北ヘルプ事務局長) 現場の神学から「歳時記」形式でキリスト教を語る！ *絶賛発売中！
被災後の日常から 歳時記で綴るメッセージ
ミル新書・二〇八頁・一〇〇〇円
info@yobel.co.jp
113-0033 文京区本郷 4-1-1
TEL 03 (3818) 4851
FAX 03 (3818) 4853

「エリヤの外套」と「ハリーの透明マント」に守られて
三木メイ著

嵐と風と不思議なマント



西原廉太

「嵐と風と不思議なマント」。まるで、ファンタジー文学のような素敵なタイトルである。本書は、大学でチャプレン職を担う著者が、学生たちに伝えたメッセージと、また牧師として主日の礼拝で、会衆に語った説教によって構成されている。

第一部では、キリスト教大学のチャペル・アワーなどでなされた奨励が紹介される。キリスト教大学とは言え、聴衆のほとんどはキリスト者ではないだろう。むしろ宗教なるものに警戒心を抱いている者たちも多いはずである。そうした学生たちに、聖書のメッセージを伝えるという業は、相当な至難である。著者は、あとがきでこう記している。「彼らの多くは自立の道を歩みだしたばかりで、将来社会のなかに自分が生きていく場所を見いだすため、どの方向に歩んでいくべきかを探し求めながら大学生活をおくっています。そういう学生たちの思いや状況を念頭に置きながら、聖書のみ言葉を通してどのようにキリストの福音を語り伝えるかが、メッセージを語る者の課題となります。」

いくつかの奨励は、二〇〇五年四月二五日に起きた、JR福

知山線脱線事故に触れられている。この事故は、乗客と運転士合わせて一〇七名が死亡、五六二名が負傷したという、歴史的な大惨事であったが、その死者の中には、筆者が働く同志社大学田辺キャンパスに通っていた学生四名が含まれ、負傷者も二〇〇名以上に及んだ。「命と命のつながり」と題された奨励では、この事故で重傷を負い、三方月入院した学生の話が紹介されている。チャペル・アワーで奨励をした彼女は、時々、涙に声を詰まらせながらも、こう語ってくれたと言う。「生きることは、多くの人々に支えられることであり、互いに支え合うことだと気づいた」。続けて、筆者は、宣言する。「イエスさまは自分の死を前にして、その意味を弟子たちに語っていますが、それは『命』の終わりではなく、新たな『命』の始まりを示しています。」

いずれの奨励・説教も素晴らしいが、評者がとりわけ大切にしたいのは、本書のタイトルにもなっている「嵐と風と透明マント」である。この大学生向けの奨励は、教会説教として収載されている「嵐と風と不思議な外套」と対になっている。この

中で、預言者エリヤに与えられた外套と、J・K・ローリングが書いたハリー・ポッターの物語に登場する魔法の「透明マント」が見事に重ね合わされる。「死んでいく人、つまり両親や預言者が、後に残される子どもや弟子のために、自分が亡くなった後も彼らが生きていく道がよりよく開かれるようにと願って、魔法のマント、不思議な外套にその祈りと使命を託しているのです。」

この説教がなされた半年前に、筆者の夫である三木清樹さんが、壮絶な闘病の末に主のもとに召された。筆者は、この「エリヤの外套」と「ハリーの透明マント」の共通性に気づいたのは最近のことであると告白する。清樹さんは、自分に生きる力を与える不思議な「外套」をいろいろな形で与えてくれたのだ、と。いつも愛し、支え、見守ってくれていたのだ、と。そして、それは主イエス・キリストがその命をもって、弟子たちに与えてくださったもの、そして私たちに与えてくださった

ものと共通している。私たちはマントのおかげで嵐や風を乗り越えていくことができる。実は、評者自身が、清樹さんから「透明マント」を与えられた者の一人なのである。評者が学生時代に洗礼を受けて以来、清樹さんは、教父(名親)として「マント」であり続けてくれた。本書の刊行を、最も喜んでいるのは、清樹さんに違いない。

私たちは主の弟子として、与えられた「外套」を、これからも受け継いでいくという「ミッシヨン」―使命が与えられている。本書を通して、多くの人が、自分自身に授けられている「透明マント」に気づき、大切にすることを心より願いたい。

(四六判・二二六頁・本体一五〇〇円＋税・キリスト新聞社)
(にしはら・れんた) 立教学院副院長・立教大学教授

高橋たか子

夜の客
遠いあなたへ
不思議な縁

高橋たか子の小説世界を
堪能できる三作品

NHK ラジオドラマ「誘惑者」
を収録したCD付。主人公を岸
田今日子が演じ、その独特な語
り口で、高橋たか子の文学世界
を表現している。

四六判・上製
定価【本体 3,200 +税】円
ISBN978-4-86325-100-7



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

本屋さんを選んだお勧めの本

京都ヨルダン社 金宗直生

『こころの賛美歌・唱歌』

大塚野百合監修



1,600円+税
日本キリスト教団出版局

本書の前半では、『わずらい多き世の中にも（植生の宿）や『いつくしみ深き（星の世界）』『朝日は昇りて（蜩の光）』など、学校唱歌として歌われていたメロディーに乗せて歌われた賛美歌が、後半には、誰もが知っているであろう賛美歌『きよしこの夜』『主われを愛す』などが、美しい写真とともに収められています（全部で18曲）。

明治時代の古い賛美歌集に載っていない曲もあり、今使われている賛美歌集には収録されていない曲もあり、「この曲が賛美歌だったの？」と、初めて目にするものもありました。

写真を見ながら曲を口ずさむだけでも十分に楽しめるのですが、できれば、各曲につけられた詳しい解説も読んで見てください。一曲の賛美歌が生まれ、歌われてきた長い長い歴史と、それに携わった人々の信仰に思いを

馳せながら歌うことで、「いつもの賛美歌」より味わい深いものになれると思います。

京都ヨルダン社

〒602-0854 京都市上京区荒神口通河原町東入ル
TEL: 075-2111-6675
FAX: 075-2111-2834
E-mail: kjordan@mbx.kyoto-net.or.jp
URL: http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/

『ポップカルチャーを哲学する』

高橋優子著



2,000円+税
新教出版社

沖繩キリスト教書店 金城芳朗

最近の漫画や映画にはキリスト教に関係するものが多い様な気がします。例えば、「聖☆おにいさん」という漫画では、仏陀とキリストが一緒に東京で生活し、ほのぼのの Comedy を繰り広げ、宗教の壁を簡単に越えてしま

この本をお勧めします。

信仰生活の中で「聖霊」ってどういうお方なの？「三位一体」って？など、確かめたことが出てきた時に、この本を開いています。すべてを理解することは難しいですが、読む前と読んだ後では、自分の信仰が変わった気がします。是非、皆様に読んでいただきたい一冊です。

沖繩キリスト教書店

〒901-2134 沖縄県中頭郡西原町字翁長777
TEL & FAX: 098-943-7221
E-mail: okinawachs@yahoo.co.jp
URL: http://www.kinawachs.com/

ます。著者は、そうした様々な現代のポップカルチャーを紹介しながら、哲学的、神学的に考察します。なるほど、こういう見方もあったのかと驚かされました。若者文化がキリスト教と密かに繋がっていることが実感でき、ポップカルチャーに対する見方を変えられました。

『神学のよみかじり』

新装増補改訂版

アリスター・E・マクグラス著



本体 4,000円+税
キリスト新聞社

キリスト者であるなら、神学の基礎くらいは知っておきたい、日々の礼拝や生活の中での素朴な疑問に神学的な答えを探したい。そんなあなたに、そして一家に一冊

キリスト教書総目録 2018年版

明治150年 近代日本とキリスト教 巻頭エッセイ 鈴木 範久 小 楢山 ルイ 氏

総記 年鑑 辞(事)典 図説 年表 / 全集(著作集) 叢書 講座 / 聖書 / 神学 / 宗教学 思想 倫理 / 伝記(フレイクソン) / 信仰 入門書 人生論 説教集 / 文学(小説) 評論 エッセイ 詩 劇 / 音楽 美術 建築 / 教育 保育 心理 社会福祉 / 児童 絵本 / 讃美歌 式文 / DVD CD カセット ビデオ / キリスト教関連雑誌 新聞 書名索引 / 著者索引 / 掲載出版社名簿

■ A5判 一般頒価1冊286円+税 送料250円
■ お近くの書店様でお求めください。

キリスト教書総目録刊行会
事務局 〒162-8710 東京都新宿区
東五軒町6-24 トーハンビル内
TEL.03-3266-9521



書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jb-shop.com	sasaki@jb-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区3-13-6 敷島センター・17F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区錦町2-2-1	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公会書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimb.com/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-9230	03-6418-5231	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.biglobe.jp/~yohatara-cbs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunshita.coccan.jp/	nagoya-seibunshita@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東1-15	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曾根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびびるの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	共用		kobe-kirisyo@mse.biglobe.ne.jp	01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masujama_1007/mex.htm	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教書店	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖繩キリスト教書店	903-0207	中瀬調子字跡777 沖繩キリスト教館内	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

既刊案内 (2017年10月～11月) (定価はすべて本体価格+税)

編・著・訳者	書名	判型	頁	本体価格	版元	発行日
佐竹明	第二コリント書 8-9章 【現代聖書注解全書】	A 5	400	7,000	新教出版社	12/1
磯部隆	ローマ帝国のたそがれ とアウグスティヌス	四六	350	2,200	〃	12/25
森野善右衛門	現代に生きる教会 —対話・共生・平和	B 6	236	1,500	〃	12/25
オスカー・クルマン著 岸千年、間垣洋 助訳／辻学解説	靈魂の不滅か死者 の復活か—新約 聖書の証言から	四六	88	1,200	日本キリスト 教団出版局	12/25
全国連合長老会日 曜学校委員会編 関川泰寛解説	子どもと共に学ぶ 新・明解カテキズム	四六	224	1,900	教文館	12/15
P.T.フォーサイス著 斎藤剛毅訳	新版 祈りの精神	四六	192	1,600	キリスト新聞社	12/20
門叶国泰	藤森勇紀牧師の礼拝説教 説教聴聞録 —ルカによる福音書	新書	384	1,100	ヨベル	12/1
鍋谷憲一	ゴメンナサイありがとう	四六 変	192	1,000	〃	12/25
松田央	信仰の基礎としての神学 —キリスト教神学への道案内	四六	190	1,700	新教出版社	1/25
横田幸子	神と向き合って生きる	B 6	300	1,700	〃	1/30
住田博子	カルヴァン政治思想の形成と展開 —自由の共同体から抵抗権へ	A 5	256	3,600	〃	1/30
アレクサンドリア のクレメンス著 秋山学訳	キリスト教教父著作集4-1 アレクサンドリアのクレメンス1 —ストロマテイス(綴織) I	A 5	494	8,300	教文館	1/30
ノエル・ストレ トフィールド著 中村妙子訳	バレエ・シューズ	四六	206	1,300	〃	1/30
J.C.マッカーン著 山吉智久訳	士師記 —現代聖書注解	A 5	242	4,500	日本キリスト 教団出版局	1/13
上野峻一 田中かおる編著	患みるに よって生 育のキリス トの形 の理 論と 成 教 実 践	A 5	224	2,600	〃	1/25
三木メイ著	嵐と風と不思議なマント —奨励・説教集	四六	226	1,500	キリスト新聞社	1/25

福音と世界

2018年4月号

特集 復活物語をどう読むか

寄稿者 廣石望 挽地茂男 李明生

三浦望 安田真由子、松本あずさ

新連載 野に咲く民衆の神学 別所梅之助を読む

森宣雄／好評連載 福音の地下水脈（F U N

I）、聖書とわたし（角田光代）、地のいと低き

ところにホサナ（ブレイディみかこ）、みこと

ば散歩（望月麻生）、現代神学の冒険（匿名定道）、

第一テモテ書（辻学）、詩篇（月本昭男）ほか

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

編集室から

宗教改革から五〇〇年が過ぎ、最近では話題も聞かなくなってきた。ぜひ続けて盛り上がってほしいのだが、当の本人も次の企画を考えるのでいっばいだ。せめてプライベートではこの歴史的な年にあやかってみようと、昨年末、カルヴァン先生の『キリスト教綱要』に挑んでみた。しかし、相手はキリスト教界の大著。しかも古典。冒頭のフランソワ一世への手紙から心が折れかけた。基礎知識も乏しい若造が、ひとりて読むのには手強すぎる……。ということで教会の同世代（二〇代）と、牧師を巻き込み読書会を開きながら少しずつ読み進めていく。

「どうだった?」「よくわかんなかった……。」「なんだ、この回りくどい言い方は（カルヴァン先生、すみません）」と友人と愚痴をこぼしながらも、「次回までに〇章まで読む」とノルマを決めてとにかく読み続ける。第一巻目も気づけばあと三分

の一。牧師も毎回、解説の準備をして臨んでくれるのだから頭が下がる。読書会を進めながら気づいたことが、大著もみんなで挑めば怖くないし、何かと楽しいということだ。

若者に限らず読書離れが深刻と言われる昨今。理由の一つにスマートフォン急速な普及もあるのだろうかと思っている。スマホとさええば、SNSをはじめ、常に誰か（何か）と繋がりが続けられることが魅力の一つだ。一方、読書は何かと孤独になりやすい。もちろんそれが良いところでもあるのだが、デバイスを片手に常に誰かとの繋がりを求める現代人にとっては、読書はあまりにも孤独なことなのかもしれない。

では、読書も誰かとの繋がりの中で始めてみるのはどうだろうか。横並びに同じ本を持って、おしゃべりしながら本を読むいいが、「一緒に読もう」の一言で、生まれる何かがあるのかもしれない。「読書会」、二〇代からすると、すでに死語化しているようにも感じる響きだが、読書の楽しみを共に分かち合うこの文化も、「聖徒の交わり」のからもっと再興させていけたらと、ひっそりと思っている。（桑島）

本のひろば 2018年5月号 予告

本・批評と紹介…ノエル・ストレットフィールド著『パレエ・シユーズ』R・ポレン著『祈る』、ドイツ福音主義教会常議員会著『義認と自由』、加藤常昭著『自伝的伝道論』他

説教を知る キーワード

平野克己



◆四六判 並製・160頁・1,620円

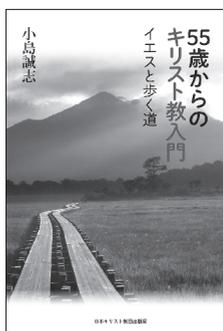
2018年3月7日刊行予定

最新の説教教学に通じた著者が、36のキーワードから「説教とは何か」を明らかにする。「説教黙想アレテイア」好評連載が待望の単行本化。

55歳からの キリスト教入門

イエスと歩く道

小島誠志



◆四六判 並製・120頁・1,296円

2018年3月7日刊行予定

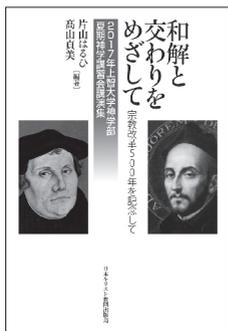
長い教会経験を持つ著者が、中高年になっての受洗者に向けて信仰の真髓を語る入門書。受洗準備に最適。教会生活の長い方にもお勧め。

2017年上智大学神学部夏期神学講習会講演集

和解と交わりを めざして

宗教改革500年を記念して

片山はるひ／高山貞美 編著



◆四六判 並製・192頁・1,944円

2018年3月20日刊行予定

「分裂」とも見なされる宗教改革をカトリックとプロテスタントはどのような見方、和解や交わりはどのようなに実現されるのかを考察する。

1冊でわかる キリスト教史

古代から現代まで

土井健司 監修 土井健司／久松英二
村上みか／芦名定道／落合建仁



◆A5判 上製・248頁・2,376円

2018年3月23日刊行予定

初代教会時代から現代に至るキリスト教2000年の歩みと日本キリスト教史まで取めた入門書。古代教父や神学者の神学思想を簡潔に紹介。

田村直臣の キリスト教教育論

小見のぞみ



● A5判・490頁・本体6,000円
近代日本において、牧師、日曜学校指導者として「男女同権」と「子どもへの権利」を提唱した田村直臣。彼の教育理論の形成と変遷を追い今日的な意義を問う。

ヒエロニムスの聖書翻訳

加藤哲平



● A5判364頁・本体5,200円
ヒエロニムスの偉業の底流にある思想とは何か。生涯と著作を辿り古代の写本と聖書翻訳の歴史を紐解きつつ、説きあかされる翻訳理論の全貌！

金の子牛像事件の解釈史



● A5判・220頁・本体5,400円
古代末期のユダヤ教とシリア・キリスト教の聖書解釈大澤耕史
出エジプト記32章の「金の子牛像事件」はいかなる罪であったのか？ユダヤ学の立場から古代キリスト教教父の解釈との比較を試み、近接関係を解明する貴重な研究。

イースターの読書のために

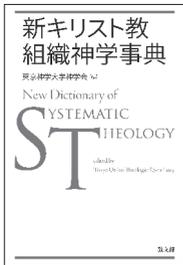
キリストは甦られた



● 四六判・356頁・本体3,200円
R・ランダウ編 野崎卓道訳
ドイツ語圏を代表する牧師・神学者（バルト、トゥルナイゼン、イーヴァント、ユンゲルほか）によるレントとイースターの説教28篇を収録。喜びと慰めに満ちたメッセージをカラー絵画が彩る。

3月の新刊 (価格表示は税抜)

牧師・神学生・信徒
必携の事典!



● 四六判・400頁・本体4,200円
新キリスト教組織神学事典
東京神学大学神学会編
長年読者の信頼を得てきた事典の新版。重要項目を選定し直し、全項目を新たに書き下ろした。組織神学を学ぶ上で必要な、伝統的な教理の理解から今日的・現代的議論までをコンパクトにまとめた神学事典。



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549 (出版部)
本のご注文は (e-shop 教文館) へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e-shop 教文館

本のご案内
一九五七年七月七日 第三種郵便物認可
二〇一八年四月日発行 毎月一回日発行

発行所 千10230814 東京都新宿区新小川町九一 一般財団法人キリスト教文書センター
電話03-3336-0165
振替00070-512679
発行人 本村利春 編集人 土肥研一 印刷所 (株)平河工業社
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話03-3336-0166

定価七八円(税抜七四)千62円
一年分三〇〇円(送料別)